



教育活動全般で行う、地域の特性を活かしたキャリア学習

～自律・協生・創発する生徒の育成～

キーワード

地域連携／探究学習／職場体験学習／プレゼンカ／自己有用感

取組概要

❖ ゲストではなくキャストとして行動する、「自律・協生・創発」する生徒の育成

1. 市中心部の立地を生かした体験・探究学習（四日市学）の取組
2. 個別最適＆協働的な学びを生み出す事前・事後学習の取組
3. 自分の思いや考えを熱を込めて伝える、「プレゼンカ」育成の取組

取組の詳細

入学



- ① 校区を探索し、職場体験の受け入れ先を発掘。生徒自身で依頼。
- ② 事業所・保護者を招き、職場体験での学びについての報告会を実施。

ゲストではなくキャストとして

卒業



- ① 経済、環境、文化等、6つのテーマに分かれ、四日市市について学習。
- ② 同様に、修学旅行で東京の状況を学び、①と比較し、考察を発表。
- ① これまでの学びを生かし、四日市市への要望、自分たちができることについて考え、まとめる。
- ② 市の関係者（R6は市会議員）に対して提言。

基礎情報

団体の特徴（学校）

生徒数 287人 通常学級9クラス 特支学級5クラス。
市の中心部に位置し、市の文化・産業とともに発展した地域を校区とする伝統のある学校である。市の施設（市役所、博物館、図書館等）、旧四日市港、コンビナート、商店街、東海道に連なる寺社や文化財等、教育資源に恵まれている。

成果

R6.4 – R7.4比較 数値は肯定的回答（%）

- 1.自分にはよいところがあると思う。 [72→90]
- 2.自分と違う意見について考えるのは楽しい。 [72→82]
- 3.地域や社会をよくするために何かしてみたい。 [60→70]
- 4.人の役に立つ人間になりたい。 [あてはまる：60→69]

自己肯定感の高まりにより、「自分たちも社会を形成する一員である」という意識が芽生えた。

将来を見据えるうえで、広い視野から考えられる生徒が増えた。

課題や今後に向けて

1. 「ハレの日（特活・総合）」→「ケの日（日常）」への拡大
日常の活動においても、自己決定できる場面を増やし、真の意味で教育活動全般にキャリア教育を位置づける。
2. 地域に開かれた教育課程の構築
生徒の将来、町の将来を考え、目標を共有し、地域の企業や団体等とWin-Winな関係を図る教育課程を構築する。

推薦教育委員会名：(三重県教育委員会)